

、おいしい水を飲める事に感謝して使おう！

光塩女子学院初等科 四年A組 小林 愛佳

「水がじゃ口に届くまでって回路みたいだ

な。」

私は、学校の授業や学校に水道局の方が来てくださって行われた水道キャラバンで学んだ事を考えながらそう思った。回路は、どこか一つが少しずれているだけでも明かりはつかない。豆電球のソケットが少しゆるんでいるだけでも明かりはつかない。つまり、全て

光塩女子学院

完ぺきでないと明かりはつかない。それは、水がじゃ口に届くまでとにていると思った。

浄水場できれいにする中で、どれか一つの工程が抜けていたら、今みたいにおいしい水道水にならなかつたのではないかと思う。水道局の方々の日々の努力が積み重なって、今の水道水があるということだと思った。

そして、水道局の方々は水をきれいにするだけではなく、水の源の水道水源林の手入れをしたり、水もれがないか調査したり、古く

なった水道管を新しくしたり、いろいろな事をしてくださっている。全て大切な事だと思っただ。

地震やごう雨などで水道水が出なくなってしまう事もあったそうだが、しかし、東京水道災害救援たいというたいを派けんして、応急給水をしたり、住民の人が困らないようにしたりしてくださったそうだ。

それだけ水は必要なもので、私達の生活の中で欠かせないものになっていくのだと強く

光塩女子学院

感じた。

そして、東京では、この夏オリンピックパラリンピックが開きされた事で、外国の方々からも東京の水道水が評価されている事を知った。

「東京の水道水はきれいだから」この言葉は、東京オリンピックに出場して、男子シンクロ高飛びでは金メダル、ナメートル高飛びでは銅メダルをかくとくしたトーマス・デーリー選手が動画サイトによってこうし

光塩女子学院

た動画で発言していた言葉だ。水ステーションが選手村内にあった事から発言している。私は、水ステーションが選手村にあるという事に少し驚いた。『今はミネラルウォーターも十分普及しているのに』と。でも、それだけ東京の水がきれいで、それにおいしくて、世界にほこれるものだからだと思った。そして、私も東京芸術劇場でボトルデイスペンサー式の水道栓を見つけた。『TOKYO Water Drinking Station』とい、街中の水道栓でおいしい水道水を給水する、環境に優しいライフスタイルを推進している。

私も、その水を飲んでみた。一口飲むと、『おいしい』と心の底から思った。水すら飲む事のできない人もいるので、おいしい水が飲める事に感謝して、大切に使う。ていこうと思う。

水道局の方々、これからもおいしい水を作るために頑張ってください。